

HPをご覧の保護者の皆様へ

## 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果分析

平成28年10月6日  
福津市立福間東中学校

第3学年を対象に平成28年4月19日に実施された全国学力・学習状況調査（国語、数学）の結果についてお知らせします。また、この調査結果をもとに本校教育の成果と課題を分析し、今後も更に教育活動の改善・充実を図ってまいります。

### 1 全国学力・学習状況調査とは

文部科学省は調査の目的を3点挙げています。

- ①義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
  - ②そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
  - ③学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上の目的を踏まえ、本校では学力状況調査問題を次のようにとらえています。
- これからの時代を生き抜く生徒に求められる教科の力が示されたものである。
  - その力を身につけさせるための授業モデルが示されたものである。

### 2 調査結果の分析について

#### (1) 学力状況調査の分析

学力状況調査の結果はあくまでも「学力の特定の一部」ではありますが、問題への解答傾向の分析により今後の授業改善に生かすための大切な指針を得ることができます。そこで、以下の5つの視点から分析結果を教科領域別に示します。

- ①国語A・国語B・数学A・数学Bについて全国平均と比べて正答率がどうであったかを示します。
- ②無答率（白紙の状態に出された問題）が10ポイント以上（本校では20名以上が白紙）であった問題の解答傾向と今後の改善点を示します。
- ③同じ誤答が20ポイント以上（40名以上が同じ間違いをした問題）の問題の解答傾向と改善点を示します。
- ④福岡県平均よりも正答率が低い問題（本校が弱点として問題）の解答傾向と改善点を示します。
- ⑤以上の分析を踏まえ、今後の学校全体としての学習への取組、各教科ごとの対策を示します。

#### 【補足説明】

- 国語A・数学Aで出題されている主な内容
  - ・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能。
    - A問題：身に付けておくべき基本的な知識や技能
- 国語B・数学Bで出題されている主な内容
  - ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容。
    - B問題：基本的な知識や技能を活用できるかどうかを問う内容
    - ※授業モデルが示されている

## (2) 学習状況調査の分析（生徒質問紙）

学習状況調査については次の3点から全国・福岡県との比較から分析結果を示します。

- ①生活習慣について
- ②学習習慣について
- ③自尊感情・規範意識・人間関係・地域との関わりについて

## 3 学力状況調査の結果及び分析

教科領域	視点	結果及び分析
国語A	①	全国平均を、やや上回っている。
	②	「ドクソウ的」のソウ（創）、歴史のケンキュウ 等の漢字が書けていない。
	③	問題文をよく読む、慣用句や日常的な漢字の知識を持つ、引用・事実・意見の区別をつける、文法用語の知識を持ち、よりわかりやすい表現の仕方を考える、といった基本的な国語の力を身につけさせることが必要である。
	④	日常的に使われる漢字や慣用句、相手や場にふさわしい言葉遣いの指導を、担任、他教科とも連携しながら、行う必要がある。
国語B	①	全国平均を、やや上回っている。
	②	補助資料を読み、本文の物語の「どの部分」が「どのように」分かるようになったのか記述する問題に無回答が多く見られた。
	③	記述で答える中で、複数ある正答の条件を一つ一つ正確に満たすことができず、誤答となってしまうパターンがよく見られた。指定された条件を整理し、問題を解くことが必要である。
	④	いずれの問題も全国平均を上回っており、③の課題を克服するためのとりくみをコツコツと行うことが大切である。
国語	⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰りの会の補充学習や週末課題で、基礎基本を充実させる取り組みを継続しているが、日常よく使われる漢字、慣用句、相手に適切な言葉遣いを、日常生活の中で正しく使えるように、学級担任や他教科とも連携しながら指導していきたい。</li> <li>・根拠を明確にして、自分の考えを伝える力を養うために、授業の中で小集団学習を積極的に活用し、意見を発表しあったり、考えたことを文章で表現しお互いにアドバイスし合ったりする場面を多く取り入れる。</li> </ul>
数学A	①	全国平均とほぼ同じである。
	②	看板の縦と横の長さの比の対応関係が捉えられていないと考えられる。問題中の数量や関係を整理し、比と数量の関係を視覚的に捉えさせる活動を通して比例式をつくる問題である。
	③	円錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい円柱の体積との関係について理解できていない。柱体の体積と錐体の体積の関係を予想する場面を設定し数学的活動を通して理解を深めることができる問題である。
	④	四角形をその面と垂直な方向に平行に動かすと、四角形が構成されることが理解できていないと考えられる。モニター等で視覚的に立体ができる様子を見せる必要がある。
数学B	①	全国平均を、やや上回っている。
	②	きちんと筋道をたてて説明できている正答率が低かった。問題解決の処理した式や手順を数学的に考察する場面を設定しながら、日頃から筋道をたてて説明させる指導が必要である。
	③	グラフの傾きを事象に即して解釈することができていなかった。表・式・グラフ

		を関連づけながら、傾きについて習得させるとともに、問題解決において表・式・グラフを相互に捉え直す活動によって理解することができる問題である。
	④	関数の対応表において、どのような性質があれば反比例であるのかという指導が不十分だったため、対応表からどのような関数なのかを判断できなかったと考えられる。対応表と関数の関係を視覚的に捉えさせる問題である。
数 学	⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学的用語の意味だけを覚えるのではなく、数学的活動の中で意味を理解させ、活用させることで基礎・基本の定着を図る。</li> <li>・空間図形の分野においては、モニターを使って視覚的に空間を捉えさせたり、実物を使ってイメージしづらい空間を理解しやすくしたりする。</li> <li>・筋道を立てて数学的に説明する力をつけるために、日ごろから、答えだけを求めるのではなく、きちんと説明する練習を行う。</li> <li>・作図の分野は、方法だけを覚えてしまって、応用問題になると解けないという状況だったので、作図の方法と、その意味をしっかり押さえさせて指導する。</li> </ul>

#### 4 学習状況調査（生徒質問紙）の結果及び分析

##### (1) 生活習慣について

生徒質問紙の項目	福岡東中	福岡県	全 国
1 毎朝朝食を食べている	<b>90.8</b>	91.8	93.3
2 毎日同じくらいの時刻に寝ている	<b>72.4</b>	73.8	75.2
3 毎日同じくらいの時刻に起きている	<b>92.4</b>	92.6	92.3
4 学校が休みの日に2時間以上の勉強をする	<b>40.3</b>	36.2	40.1
5 平日30分以上読書している	<b>30.7</b>	26.5	28.2
6 新聞を週に1回以上読んでいる	<b>29.5</b>	29.7	36.0
7 テレビやインターネットのニュースを見る	<b>91.8</b>	87.0	87.4
8 平日テレビやビデオを2時間以上見る	<b>46.5</b>	49.6	48.7
9 平日1日当たりテレビゲームを2時間以上する	<b>30.6</b>	33.7	34.9
10 平日1日当たり携帯でメールやインターネットを2時間以上する	<b>29.5</b>	31.1	30.1

- ・約1割の生徒は朝食をとらずに登校していることは問題だととらえている。PTAとも協力しながら朝食をとる生徒を増やしていきたい。
- ・ほとんどの生徒が決まった時間に起床しているが、就寝時間にはばらつきのある生徒も多い。規則正しい生活リズムの大切さについて指導していく。
- ・全国や福岡県と比較して、新聞よりもインターネットでニュースなどの情報を得ている生徒が多い。
- ・生徒会から「スマホ宣言」を出したり、家庭で意識的にテレビやメール、インターネットを制限して頂いたりしていることで、ネット等によるトラブルが少なく、結果として学校で集中して授業に取り組むことができているのではないかと。

(2) 学習習慣について

生徒質問紙の項目	福岡東中	福岡県	全 国
1 家で学校の宿題をしている	<b>91.9</b>	90.0	90.1
2 家で学校の授業の復習をしている	<b>47.9</b>	47.1	51.0
3 家で学校の授業の予習をしている	<b>27.0</b>	28.4	34.2
4 家で自分で計画を立てて勉強している	<b>34.7</b>	42.6	48.4
5 学校で好きな授業がある	<b>86.7</b>	77.9	79.9
6 平日家庭学習を1時間以上している	<b>62.2</b>	61.2	67.9
7 1、2年生の時に受けた授業で、生徒間で話し合う活動をよく行っていた。	<b>88.2</b>	74.3	77.8
8 友達の前で自分の意見や考えを発表することが得意	<b>57.1</b>	51.1	50.2
9 友達と話し合う時、最後まで意見を聞くことができる	<b>95.9</b>	93.0	93.0
10 1、2年生の時に受けた授業で、ノートに「めあて」と「まとめ」を記入していた	<b>96.4</b>	86.7	76.8

- ・家庭できちんと宿題をする習慣が身につけているが、計画的に家庭学習を進めている生徒は少ない。
- ・昨年度、家で「復習」をしている生徒は65.8%だったが、本年は47.9%に低下した。小・中合わせた福岡東中ブロックで、自学の取り組み方について共通理解を図り、自学ノートの使い方などを見直していったが、今後はさらに予習・復習を徹底させることで学力の定着を図っていく必要がある。
- ・本校は、昨年度「友達の前で自分の意見や考えを発表することが得意」という項目は40.7%で全国平均や県平均を下回っていたが、本年度は57.1%まで上がった。この成果を上げた一つの要因として考えられることは、1年時より全ての教科において交流活動を積極的に取り入れた授業づくりがなされていることである。グループで自分の考えを伝えたり、全体で発表をする機会を多く設けたりすることで、自分の意見を安心して人前で言える生徒が増えてきたのではないかとと思われる。今後もこの取組を充実させていきたい
- ・「好きな授業がある」と答えた生徒の割合が高いのは、「次の時間が楽しみな授業づくり」を目標に取り組んできた成果の一つではないかととらえている。今後も授業改善に取り組んでいきたい。

(3) 自尊感情・規範意識・人間関係・地域との関わりについて

生徒質問紙の項目	福岡東中	福岡県	全 国
1 難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している	<b>67.9</b>	69.1	69.6
2 将来の夢や目標を持っていますか	<b>69.4</b>	71.9	71.1
4 自分には良いところがあると思う	<b>65.3</b>	68.2	69.3
5 学校に行くのは楽しい	<b>89.3</b>	81.7	81.4
6 学校で友達に会うのは楽しい	<b>99.0</b>	95.1	94.7
7 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事を話す	<b>76.1</b>	73.1	74.1
8 人の役に立つ人間になりたいと思う	<b>93.9</b>	93.6	92.8
9 いじめはどんな理由があってもいけない	<b>98.0</b>	94.4	93.6
10 学級のみinnで何かをやり遂げ嬉しかった経験がある	<b>87.7</b>	81.5	84.2

11 学校の規則を守っている	<b>95.4</b>	94.1	94.7
12 先生は自分の良いところを認めてくれていると思う	<b>79.6</b>	75.9	78.0
13 地域などでボランティア活動に参加したことがある	<b>90.3</b>	67.9	70.2
14 今住んでいる地域の行事に参加している	<b>43.3</b>	37.4	45.2
15 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある	<b>66.4</b>	65.3	65.8

- ・ほとんどの生徒が「いじめを絶対に許さない」という気持ちを持つことができるようになったのは普通の学級経営や道徳教育の充実を図ったことも要因の一つであるととらえている。
- ・約8割の生徒が、「先生は自分のよいところを認めてくれる」と感じているが、「自分には良いところがある」という項目は、全国や県平均よりも低くなっている。自分に自信を持つことができるよう、様々な場面で生徒の良いところを見つけ、それを学校、家庭、地域で褒めながら自尊感情を高めていきたい。
- ・99%の生徒が「友達に会うのは楽しい」と答えており、生徒間の人間関係が大変良好であることがわかる。結果として、「学校に行くこと楽しい」と感じている生徒が多いことも非常によいことである。今後も学校が生徒一人一人にとって安心して楽しく過ごせる場になるよう、教職員全員で生徒理解に努めていきたい。
- ・地域のボランティアに参加している生徒が9割を超しており、県や全国平均を大幅に上回っている。本年度は年間1000人の応募を目標に取り組んでいる。その成果が出ているのではないだろうか。夏のボランティアで既に900人以上の応募があり、秋のボランティアでも200人以上の生徒が活動を希望している。